

ご利用案内(10月・11月)

イベントのくわしい情報は
見開きのページをご覧ください

【投映内容】…各回約 45 分

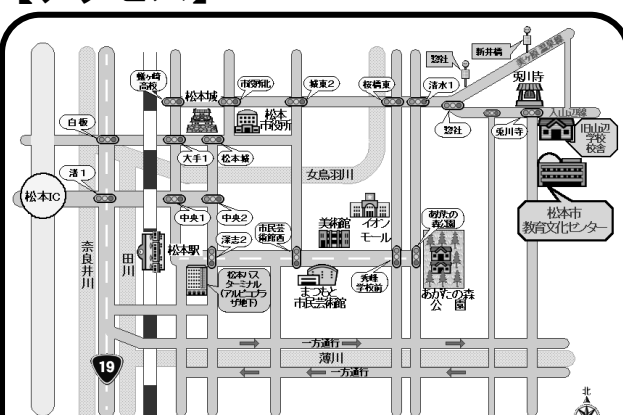
投映日	1回目	2回目	3回目	4回目
土曜日 日曜日 祝日	10:00~10:45 (ファミリー向け①) 【ライブプラ&番組】 星空オールライブ解説 クレヨンしんちゃん 宇宙からの来訪者 カスカベ大パニック	11:15~12:00 (全世代向け) オールライブ☆プラネ タリウム(星空生解説) 季節の天文イベントを解説 員がバラエティー豊かにお 伝えます。	13:30~14:15 (ファミリー向け②) 【ライブプラ&番組】 星空オールライブ解説 かいけつゾロリ うちゅうの勇者たち	14:45~ (科学番組/イベントプラ) 【ライブプラ&番組】 星空オールライブ解説 470億光年の、その先へ -宇宙のはてをさがす旅- 【イベントプラ】 《10/21(土)・11/18(土)》 ちよこつとプラ 親子 《10/28(土)・11/25(土)》 ちよこつとプラ スタディ 《10/22(日)・11/26(日)》 チャレンジプラネタリウム 《11/11(土)》 星空コンサート
水曜日	【毎月1回】 16:30~17:00 《10/4(水)・11/1(水)》 ちよこつとプラ スタディ(30分) 土曜日と同じ内容です。詳細 は中ページのイベント案内を ご覧ください。	【希望投映】について ★一般投映以外の時間で、ご希望による投映も行って おります(団体10名以上) ★時間・内容・使用上のルールなど事前に打ち合わせ をお願いしております。まずはお電話にてお問い合 わせください ★ご希望の日時にお受けできかねる場合もございます		

【観覧料】

高校生以上(個人)	520円
高校生以上 (団体20名以上)	410円
中学生以下	無料

- ★博物館パスポート1枚につき、保護者1名無料
- ★転入世帯優待券1枚につき、1世帯家族無料
- ★障害者手帳持参により、
本人とその介助者1名無料
- ★市内4大学・専門学校新入生は、
博物館パスポートか学生証持参により本人無料
- ★市内在住70歳以上の方は無料
- ★その他減免あり(お問い合わせください)

【アクセス】



【交通案内】

- 〈バス〉 松本バスターミナル 3番のりばより乗車
美ヶ原温泉線 新井橋で下車 徒歩15分
- 〈車〉 長野自動車道松本ICより約20分
駐車場60台(無料)

この紙は、市役所で発生した使用済古紙を製紙機で再生したものです。

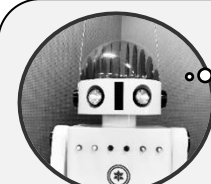
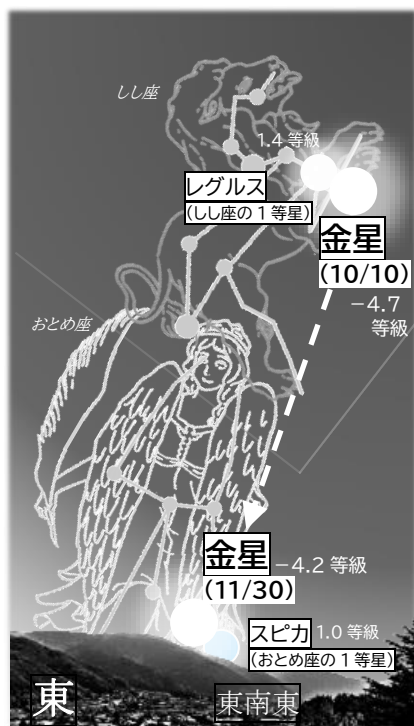
【天文ミニ解説】

〈明け方の金星と1等星〉

秋になると、金星が明け方の東の空で見頃を迎えます。薄明の中で一際輝きを放つ金星が、細い月や1等星とランデブー(天体同士が見かけ上接近すること)する時があります。

10/10は金星としし座の1等星レグルス、11/30は金星とおとめ座の1等星スピカが接近します。明るさの違いを比較してみましょう。

10/11、11/9、11/10は細い月と金星が接近し、明け方の空に美しい光景となります。



次号は12月1日(金)頃
発行予定です。

センター マスコットキャラ
じゃんけんロボット

松本市教育文化センター
〒390-0221 松本市里山辺 2930-1
TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604
E-mail: kyoubun@city.matsumoto.lg.jp



公式HPもみてね

ほしみる

No.102 2023.10.1

みんなちがって、みんないい~プラネタリウム 100周年によせて~
今年の10/21(土)、ドームに星空を投映する「近代プラネタリウム」の誕生から100年を迎えます。今回は、当館の投映機の仕組みから、プラネタリウムという施設をふり返ります。

プラネタリウムのはじまり

ドーム状の曲面スクリーンに星空とその動きを映し出し、再現する設備や施設を「プラネタリウム」と呼んでいます。近代プラネタリウムともいいます。

元々プラネタリウムは「惑星」に由来する言葉で、太陽・月・惑星の動きを再現する装置を指しましたが、現在では恒星を含む星空全体の動きも再現できます。

プラネタリウムが初めて試験公開されたのは、1923年10月21日、ドイツでの出来事でした。この出来事は当時、作られた都市にちなみ「イエナの驚異」と絶賛されました。

星空を映し出すための機械を「投映機」、もしくは「投影機」といいます。

現在では色々な星の映し方があり、その違いで「ピンホール式」、「光学式」、「デジタル式」などの種類に分けられます。



当館のプラネタリウムの様子

松本プラネに星は何個？

当館の「オルフェウス」は光学式投映機です。恒星は約9,500個の6.55等級までの星、天の川は約800万個の星で表現されます。また、56個の星雲星団を加えて美しい星空を映し出します。

恒星原板(星の配置通り穴を開けた金属やガラスの板)とレンズを複数組み合わせた「恒星球」から、光を出して星空を映し出す投映機を「光学式」といいます。星空の動きは、投映機そのものを回転させて表現します。太陽、月、惑星は大きく位置を変えるため、恒星球とは別に惑星投映機があります。

恒星球には、北半球用と南半球用があります。

昔の光学式は2つが独立した「二球式」が主流でしたが、近年では2つが合体した「一球式」が増えており、視界の遮りが少ない星空を実現しています。



当館の超小型光学式投映機
オルフェウス(一球式)

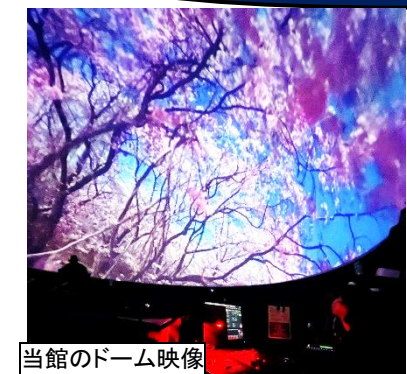
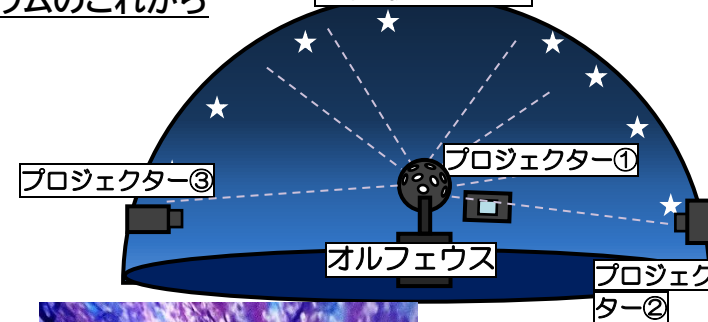
プラネタリウムのこれから

当館のプラネタリウムは、2019年からドーム中央の光学式投映機と、3台のデジタルプロジェクターを組み合わせたハイブリッド式プラネタリウムとなりました。本物に近い美しい星空を映し出す光学式と、番組や宇宙のCGなど自由な映像表現が得意なデジタル式の両方の良さを生かすことができ、近年ではハイブリッド式を採用する館が多くなっています。また、デジタル技術の進化に伴いドームシアターとしての機能も日々進化しています。

次世代のプラネタリウムとしては、ドーム自体が発光するLEDディスプレイのプラネタリウムや、より高解像度のデジタルプラネタリウムなどがあり、今後の進歩が期待されます。

プラネタリウムの数だけ、投映機の違いがあり、星空の違いがあります。それぞれに魅力があり、訪れる人の宇宙への知的好奇心に応え続けます。

当館の投映の仕組み



当館のドーム映像



センターには昔の投映機も展示されているよ！ 違いを確かめてみよう！

